

令和4年度 特別の教育課程の編成の方針について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立高松小学校（外 11校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を開始又は変更した年度（特例の適用開始日）

2007年4月

2018年4月 変更

*取組の期間

2030年4月まで

2. 特別の教育課程の概要、特別の教育課程を編成する際の各教科等の授業時数

急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実が我が国にとって、極めて重要な問題であり、国民一人一人にとって、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際、国際共通語である英語力の向上は日本の社会にとって不可欠である。これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

3. 地域や学校の特色とその特色を活かして特別の教育課程を編成して教育を行う理由

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

4. 実施の効果、課題および方向性

(1) 特別の教育課程の編成・実施の効果と手立て

- ・授業で英語の歌やゲーム、クイズなど、楽しい活動や、児童の興味をそそる内容を取り入れることで、楽しみながら英語の表現に慣れ親しんでいる。
- ・既習表現ばかりでなく、未習表現でも児童が知りたい英語を教え、見えるところに掲示することで、自然に英語が身についている。
- ・インタビュー活動を多く取り入れ、英語で伝え合う楽しさを実感できるようにしている。
- ・たくさん賞賛することで、児童は自信をもって取り組んでいる。
- ・インプットとアウトプットのバランスをとるようにしている。
- ・基礎的な表現を使ってのやり取りはほぼ出来ている。会話を続けるためのテクニックも少しずつ身につけているが、まずはもっと会話を楽しめるようにしたい。
- ・パフォーマンステストを行っているが、評価が難しいと感じている。非言語（クリアボイス、アイコンタクト、ジェスチャー、スマイル）の他に、相手意識や、伝わり度も大切だと感じている。努力して暗記している児童も評価したいが、読みにならないように伝えている。
- ・非言語（アイコンタクト、ジェスチャー等）は、低学年から少しずつ慣れさせている。
- ・6年生が受験した GTEC Junior では、昨年度に比べてすべてのグレードが昨年度を上回った。昨年度の反省から、文字を意識して、単語や文を読むことに力を入れてきた成果が表れた。

(2) 課題の改善のための取組の方向性

- ・ Small talk では、誰もが取り組みやすいような身近で単純な話題や、児童の興味をそそる話題を提供する。また、失敗を恐れずに、会話を楽しむことが大切なことを伝える。
- ・ Small talk の活動を確保し、既習表現の活用や、会話に有効な表現、切り返しなど、会話を継続するためのテクニックをその都度継続的に指導していき、パフォーマンステストにつなげたい。
- ・ good model として児童の発表を取り入れ、アイディアの追加や、次の会話への意欲付けにする。
- ・ 言語活動を行う「目的・場面・状況」を明確にする。
- ・ 時間に余裕があれば、フォニックスだけではなく、ダイグラフも取り入れ、リーディングだけではなく、ライティングにも役立てたい。